

☆ 視点を変えれば、世の中は変わる。

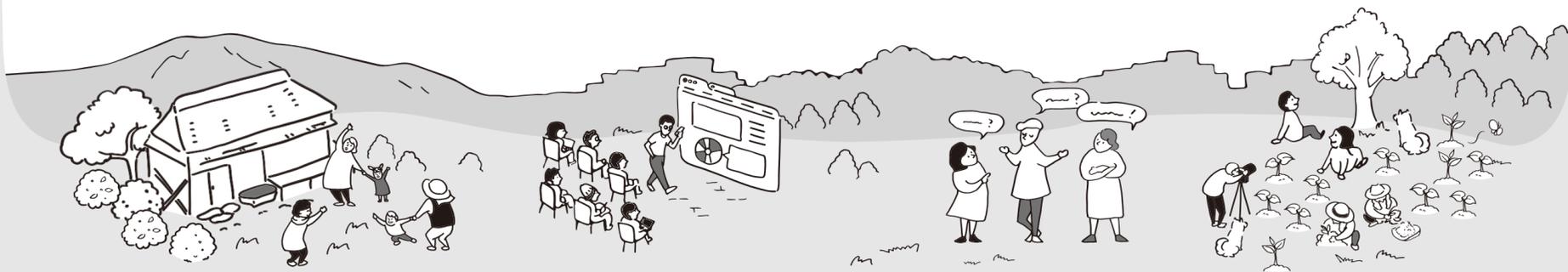
☆ Rethink=視点を変えて考える

ちょっとした問題や課題に出会ったとき、視点を変えて本質に気づくことで、前向きな行動につながります。

Rethink PROJECTは、JTがパートナーの皆さまとともに、地域社会への貢献活動の総称です。

私たちは、心みたされるよりよい明日の実現に向けて、Rethinkをキーワードにこれまでにない視点や考え方を活かしながら、地域社会の様々な課題に向き合っています。

そしてRethinkフォーラムは、地域住民、地域企業、自治体の方々とともに地域社会の課題解決に向けてディスカッションをする場です。みんなで地域の未来についてRethinkしてみませんか？



「Rethink フォーラム」(千葉日報社主催、千葉県、千葉市、千葉テレビ放送、パイエフエム後援)が、7月18日に千葉市の三井ガーデンホテル千葉で開催されました。第一部は、俳優の秋元 才加さんのトークショーがあり、第二部では、秋元さんに加え、熊谷俊人千葉県知事、NTT 東日本監査役の境麻千子さん、進行役のフリーアナウンサー泉水はる佳さんが、「Rethink 千葉～誰もが活躍できる社会へ～」をテーマにパネルディスカッションを行いました。



あきもと さやか
秋元 才加氏 (俳優)
演題: 私の Rethink



1988年、松戸市出身。2013年8月、アイドルグループAKB48を卒業。俳優として映画・ドラマ・舞台・海外作品にも出演するほか、タレントとしても幅広く活動する。

☆ 活発な幼少期。多様な文化に気付く ☆

一松戸市出身。どのような幼少時代を過ごしましたか。
母親がフィリピン人で、父親が日本人。幼少期、偏見を感じたことはありました。今回のテーマのRethinkや多様性にもつながる「あれ、私ってどこかみ出だしてるのかな」みたいな。今だったら「色々な文化があるし、日本のいいところも沢山あるよね。あなたとは考え方や文化が違うところもあるけれども、あなたの事をもっと教えて」と歩み寄る姿勢が大切なんじゃないかと思っています。

★ 夢のアイドル、現実とギャップ。父親の後押し

一芸能活動に興味を持ったきっかけは。
元々、歌ったり踊ったり自分を表現するのがすごく好きで、東京・渋谷でAKB48のオーディションのチラシをもらい(プロデューサーの)秋元康さんは、私が好きな美空ひばりさんの「川の流れるように」を書いた人だ」とオーディションを受けました。これも今思ったらRethinkにつながりますがオーディション

に合格したことは良かったのですが、デビュー当初は可愛い系のグループだったので「あれ、私ここにいていいのかな」と不安になり、父親に「合わないかも、やめたほうがいいかも」と、相談した時がありました。「今は可愛い系系統だけど、カッコいい系統だったり、グループも変わっていくんじゃない?」と言われて時に、「頑張ってみようかな」って思いました。

一AKB48は総選挙で評価されます。多感な年代の女の子には厳しい世界でした。

個人の仕事は増える一方で総選挙の順位が下がるとギャップに憤りや悔しさがあり、今後の活動を考えて総選挙に出ない選択をしました。自分の価値は自分で守るしかありません。卒業後はAKB48時代、秋元康さんによく言われた「全て、とりあえずやってみよう」を大事に、いろいろな仕事に挑戦しました。今は、「なんでもやらせていただく」から、自分が「面白いかな」「好きだな」「得るものがあるかな」を意識的にチョイスするという考えに変わりRethinkしている感じですかね。

一海外でも活躍されました。

アイドル時代は楽曲やダンスが与えられ、衣装は用意されていました。海外の衣装合わせで「あなたが一番輝くと思う衣装を自分で選びなさい」と言われた時、カルチャーショックを受けました。海外で活動したい思いもあり、帰国後は「ちゃんと意志を持たないと」と、意識が変わりましたね。

★ キャリアと子育てで両立「チャンスの順番」

一自分の中でRethink、何かこう言ってほしいと言われると何をあげますか。

去年出産して、キャリアと子育ての両立は、本当に大変で難しいと身に染みて感じています。「このまま子育てをして、戻る場所ってないんじゃないか」と、心細くなっている時に、夫が「人生には波があって、常にいい人なんていない。でもずっと頑張り続けていたら、きっと君の順番がまた来る」と。AKBに「チャンスの順番」って曲もあるんですけど、いつも前向きな考え方を提示してくれるパートナーでよかったと感じています。

こんなに皆さんの前で自分のことをお話しする機会がなかなかないので、お話ししながら自分もいろいろRethinkさせてもらいました。

テーマ「Rethink千葉～誰もが活躍できる社会へ～」

パネルディスカッション出演者 秋元 才加氏 (俳優)、熊谷 俊人氏 (千葉県知事)、境 麻千子氏 (NTT東日本監査役) 泉水 はる佳氏 (フリーアナウンサー)

多様性尊重の千葉へ条例

泉水 誰もが活躍できる「ちばづくり」へ取り組みが広がっています。

熊谷 多様性に関しては恵まれたキャリアだと思っています。就職したNTTでは女性の課長に仕えました。千葉市長時代は子供を保育所に迎えに行き、保護者会にも出席しました。大学時代、バイト仲間がLGBTをカミングアウトしてくれて、一人の人間として接する機会を得ました。行政を預かってから障がい者や外国人との共生問題に関わり、気づきを得て多様性が当たり前になりました。この気持ちやチャンスをもっと多くの人に理解してほしいです。

境 先月までNTT東日本千葉事業部長を務め、地域に根差す企業として、「共感・協力・感謝」をキーワードにICT(情報通信)の力で地域を元気にしたい仲間と過ごしました。今日も千葉愛MAX。多様性尊重条例にある「尊重・参加・活躍」の言葉をシンプルに心へ入れながら、お二人とお話することで私自身もRethinkしたいです。

秋元 子供の頃から多様な文化に囲まれて「多様性って何だろう」と知らないながら考えてきました。育ってきた環境で「多様性とは何か」という考えに触れる機会がない方もいると思います。皆さんと一緒に考えていけたら、改めてRethinkしていきたいです。

泉水 今年1月に施行された多様性尊重条例の背景や意義は。熊谷 日本全体が多様性が進んでいます。千葉県は、東京オリンピック・パラリンピックの開催地として国籍や宗教など価値観の違いを理解し、性的自認や性的指向を尊重するムーブメントを受け止め、障害の有無に関わらずスポーツを通して交流する社会の

構築へ向けて官民タッグで歩んできました。さらに千葉県は日本の空の玄関口、成田空港があり、世界との「違い」が身近です。人は必ずどこかにマイノリティを持っています。目指すのは、さまざまな立場の方が抱える生きづらさを解消して豊かになっていく社会です。このような考えで条例を作りました。

境 すごいRethinkしました。社内で「誰かは何かのマイノリティだ」という話がよく出て、分かち合い、尊重し合うことが難しく大事な話してきました。県として包括的かつ、きめ細やかに言葉を決めた多様性尊重条例の誕生は、気持ちのベクトルを「こっちでいい」と思わせてくれます。とても大きな一歩です。

秋元 私は、ミックスルーツでマイノリティ。この感覚がないマイノリティ側は、多様性を意識する機会が少ないかもしれません。「多様性の尊重」を具体的な共通認識として捉える条例ができたことはすごくできて、目標に向かって頑張っている千葉県が好きです。

苦しい思いを抱え込まない社会へ

泉水 苦しい思いを抱えている方の声は表に出づらいですね。秋元 公共の場に英語表記が少なく、いつも母親は「何て読むの。役所の書類も分からない」。東京まで来てくれて、私が書類を記入したりしています。

熊谷 英語も日本語も十分でない外国人が増えています。「やさしい日本語」をあらゆる分野で表記すれば母国語へスマートフォンなどで変換できます。深刻なのは、母親などが家に閉じこもりDV被害に遭うケース。外国人の立場が重なり日本の女性以上にDV被害を訴えられない場合もあり、日本語教育も含めて支援体制を作る必要があります。

秋元 日本とフィリピンを行き来して母国語も日本語も中途半端

な子供が親戚にいて、不安定なアイデンティティで育つ姿を見てきました。

境 Rethinkさせられるテーマですね。言葉はアイデンティティを作るベースだと思います。進化しているICTは「インフォメーション&コミュニケーションテクノロジー」の略。多様な方々が離れた場所からでも自分のアイデンティティを維持したまま社会とつながることができるICTの大事さに改めて気付きました。

パラスポーツで障がいを理解

泉水 多様性尊重の理解を深める千葉県の取り組みはありますか。

熊谷 一つ一つのパラスポーツを体験することで、それぞれの障がいの特性も体験できます。パラスポーツは、誰でも楽しめるユニバーサルスポーツだと広く知ってほしいです。SNSも含めてパラスポーツフェスタなどの開催を発信しています。体験の機会を増やすように努力しています。ぜひアンテナ張っていただければ、体験できる機会は以前に比べれば飛躍的に増えています。

境 以前、ボッチャで障害者チームと対戦したら完敗。悔しかったです。東京パラリンピックの開幕メッセ会場では、車いすの利用を考えて通信環境の配慮をしました。競技を一緒に成功させる経験になり、普及へのキーワードにもなると感じました。

秋元 ブラインドサッカーの体験で、目隠しをしたら聴覚がさえました。体験しないと分からないことがたくさんありますね。車いすを信頼関係のない人に押されるとものすごく怖く、体験して分かりました。それからは車いすを押すときに細かな気遣いをするようになりました。さまざまな体験をする機会が増えれば、多様性にもつながると思います。

